

熊本市現代美術館収蔵作品展  
ハッピー・ホーム開催中！

熊本市現代美術館発行

AKL

ART KISS LETTER  
FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Contemporary Art Museum,  
Kumamoto

vol.25



# Museum Information

ハッピー・ホーム CAMKコレクションVol.2開催中！(～2月12日)

## この展覧会、ただの展覧会ではない！

「レーシングカーみたい」「これ飛ぶんですね？」「いえ、飛びませんけどー」「飛んでも不思議じゃないかも」  
「ダンボールみたい」「レトロな感じ」「ドアミラーがレトロっぽい」「よくできてるなあ」「かわいい」「子供に大人気  
ですね」「みんな触りたくてしょうがないよね」「愛らしい」「前から見たら顔みたいに見える」(観客)  
(ヤノベケンジさんの作品<アトムカー>の解説)

今回、市民から展覧会づくりの協力者(CAMKコレクション・コーポレートメンバー)を募り、一緒に  
展覧会解説を作りました。アートって本当はこんなふうに、自分の好きなように鑑賞するものなんです。  
ぜひこの展覧会で、新しい美術の表現や、新しい美術の見方との出会いを楽しんでください。(K.K)



ヤノベケンジ「アトムカー」(真)  
(1999-2002)  
111.0x150.0x210.0cm

### CAMKコレクション・コーポレートメンバーからのメッセージ

「美術に興味のある人、ない人関係なく、すべての作品を回ってください！必ず世界観が変わります。言葉も知識もいらないです」「すごく素敵な展覧会になっています。作品が身近に感じられます」「ぜひ見に来ていただきたいです。自分の固い頭が柔らかくなる感じがします！きっと、美術館の出口を出たら、世界が変わって見えますよ！」「親子で会話を交えながら鑑賞できる展覧会です。学校の先生方にも、生徒さん達にすすめていただきたい」「作者もびっくりするでしょうね、この感想！みなさんもお覧になれば、きっと想像がふくらんでいきますよ」「作者やテーマなんか気にしない、気にしない！あなたなりの受け取り方で、楽しいゆーっくりした時間を見つけてください。日常からちょっぴりワーブしてー」

### CAMKコレクション・コーポレートメンバーとは？

市民から一般公募したコーポレートメンバー(展覧会協力員)と、作品を鑑賞するプロジェクトを行いました。このプロジェクトには会社員や主婦、学生など23人が参加。事前に「知識ではなく、感じたことを話し合う」とのルールを確認し、勉強会では、作品の意図はもちろん、作者名も、題名も知らない状態で鑑賞をしました。その勉強会で飛び出した、楽しく、ときに鋭く本質を突く感想の数々は、展覧会場に掲示されているほか、展覧会カタログにも収録されています。

H A P P Y  
H O M E  
C A M K !!  
C O L L E C T I O N 2

HAPPY HOME CAMK COLLECTION Vol.2  
ハッピー・ホーム  
CAMKコレクションVol.2



展覧会カタログ発売中！(定価600円)



アートパレード展示風景

### 第17回熊本市市民美術展 熊本アートパレード 2005年11月26日~12月11日

「思い出」をテーマに平面、立体、映像部門あわせて444点の応募がありました。今回は大津英敏氏(独立美術協会会員、多摩美術大学教授)を審査員にお迎えし、アートパレード大賞(市長賞)をはじめ、30点の入賞作品が決まりました。本展覧会はアンデパンダン形式を取り入れ、出品作品すべてを展示しました。思い出というテーマを基に、それぞれの視点から、家族や風景など様々な思いのこもった作品が果まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。(N.I)



大津英敏講演会

### 大津英敏講演会「絵画への思い」 2005年11月26日(土)

第17回熊本市市民美術展 熊本アートパレードの関連イベントとして、今回の審査員をお願いした大津英敏先生(独立美術協会会員、多摩美術大学教授)の講演会が行われました。

「大受験の時のエピソードや、『黒田清輝の(湖畔)』に影響されて制作したこともあります」というご自身の作品に対する気持ちなども語ってくださいました。また、初期の作品から家族をモデルにした代表的な作品までを、スライドで紹介しながら先生自ら解説され、聴講者からの質問にも丁寧に答えてくださいました。「これからも家族というのは大きなテーマです」と、家族を愛する先生の人柄が伝わってくる講演会となりました。(A.T)

### アン・ハミルトンさん来熊

11月21-23日にアン・ハミルトンさんが展覧会の準備のためにアメリカからやってきました。今回は展覧会場に約80台並べる大きな机の下見に学校を訪ねるなど、調査を重ねました。夏の来熊で、「鳥のさえずり」、「樹の声」に感銘を受けていたアンさん。聴くこと、そして発することが展覧会のテーマのひとつです。

「アンハミルトン voice ヴォーチェ」展は2月25日スタートです。どうぞお楽しみに!

\* voiceとはイタリア語で「声」という意味です。



アン・ハミルトンさん

### CAMKEES アートフェスティバル 2005年12月11日(日)

熊本市現代美術館ボランティア CAMKEES(きゃんきーズ)によるアートフェスティバルがキッズファクトリーで開催されました。CAMKEESの活動内容をパネルや映像などで紹介するほか、メンバー手作りの編み物やアクセサリーなどを販売するバザーも行いました。活動紹介を興味深そうに見ていく方やバザー品を買い求める方、それぞれがアートフェスティバルを楽しみ、メンバー同士の交際も深まったイベントとなりました。(A.T)



CAMKEESアートフェスティバル



田島涼子と  
バイオレッツコンサート

### コンサート: 田島涼子とバイオレッツ 2005年11月27日(日)

「春の海」で始まったコンサートは、古典の名曲から、現代の人気曲の曲まで、幅広く豊かな音色を聞かせてくれました。田島涼子さんが合同にお話くださったように、音楽をとおして、世代や国をこえて、心を通わせることのできる楽しさ、喜びが会場にもじゅくじゅくと伝わってくる温かな時間となりました。(Y.H)



福島次郎講演会

### 福島次郎講演会 「わが文学を語る 『現車』から 『花ものがたり』 まで」 2005年12月4日(日)

小説家の福島次郎さんは、本紙第4号でのインタビュー(A.G第1号収録)をきっかけに、美術誌プロデュースによる少女小説『花ものがたり』(2005年)をご執筆いただくなど、熊本市現代美術館とゆかりの深いアーティストのひとりです。

この講演会では、芥川賞候補作『現車』(1961年)から最新作『逐月』(2005年)を中心に、福島さんの人生と転機、そして現在の心境について語っていただきました。少女小説と親しんだ幼少時代や、終戦の日、平和の喜びを胸に列を率いて覆り歩いた少年時代(その後ひどく叱られたそうです)、ジャケット盗難事件をきっかけに小さなエゴを打破した青年時代など、福島次郎さんの作品を支えるバックボーンについて初めてお話をいただきました。表現者としての福島さんの強さ、自由な精神と、愛を語らずにいられない情の深さを感じさせる講演会でもあり、聞かずとも、福島さんの人生を通して若狭60年を考える機会となりました。(H.T)

### モクモク工房

第22回「絵葉書額」 2005.11.3/11.17/12.1  
第23回「キャンドルスタンド」 2005.12.1/12.15/12.22

「モクモク工房」第22回は「絵葉書額」、第23回は「キャンドルスタンド」でした。写真立てにもなる「額」の区では、遠く離れた家族に写真を入れて送ってあげるといったエピソードも!素敵な作品ができあがった「キャンドルスタンド」は、それぞれのクリスマスをあたたかく彩ってくれたようです。(A.S)

★「モクモク工房」は、本曜日の午後2時~5時まで、美術館のキッズ・ファクトリーで開催しています。ただいま、第25回(2.23/3.9/3.23)「小物入れ(マヨネーズスタンド・ポケットティッシュ入れ)」の参加者を募集中。詳細・申し込みは現代美術館096-278-7500まで



モクモク工房の作品:キャンドルスタンド

### 東部児童館・熊本市現代美術館共催ワークショップ 第7回 naonao's(ナオナオス/グラフィックデザイナー) とつくる「サンタバッグ」 2005.12.3

クリスマスのプレゼントを入れてもらう、バッグを作りました。フェルトやボタンで自分の好きな形をバッグの上にデザインしていきます。みんなの夢が本物になったみたい、キラキラのバッグたちが出来上がりました!(K.K)



私らしいバッグにしよう...

できた!

# SUITTOKU KUMAMOTO

(スイトット・クマモト)

今年度のスイトット・クマモトは、当館の展示室GIII(ジースリー)での展示会をご紹介します。

GIII.vol.33 (2005.11.3-6)

## 盆栽という名の宇宙vol.2



盆栽という名の宇宙vol.2

昨年に引き続き、盆栽という名の宇宙Vol.2が開催されました。日本盆栽協会熊本支部の皆さんが丹精込めて育てた銘品34席が並び、松の力強い緑や、柿の葉のおだやかなあたたかみとが混在した会場には多くの人がつめかけました。同時期に単人展が開催されていたため、盆栽の時間を積み重ねて完成される美と、切り取ったその一瞬に美を求めらるいけばなどの対比を見ることができ、同じ期間に開催された酸醗味を味わうことができました。(E.Z)

GIII.vol.34 (2005.11.9-11.27)

## 熊本の作家4 宇野千里展



宇野千里展

宇野千里展は、本年、ご遺族より寄贈を受け10年目の佳節を迎えるにあたって、当館収蔵作品を初公開することを目的として開催いたしました。出品作品は、1967年パリに遊学した際の作品やデッサンをはじめ、生涯の課題として取り組んだ、熊本城の不開門や、冬の阿蘇の風景などです。日展や光風会展への出品作を中心に紹介しました。

展示された作品からは、画面構成に対する宇野の美意識と、具象の美を頑なに追求したひとりの画家の人生が感じられました。(H.T)

GIII.vol.35 (2005.11.30-12.25)

## 友枝雄策30年展



友枝雄策30年展

熊本を代表するグラフィックデザイナー、友枝雄策さんの30年の歩みを回顧する「友枝雄策30年展」が開かれました。

1975年に熊本にデザイン事務所を構えて以来30年間、デザイン界のトップを走ってきた友枝さん。その歴史を、時代ごとの作品を交えながら振り返る年表の他、「愛・地球博」ポスターや、私達にも馴染み深い企業のシンボルマークなどが並び、興味深そうに作品に見入るお客様も多く見受けられた展示となりました。(A.S)

## Art Gamadas(アート・ガマダス)第3号発刊!

熊本市現代美術館2003年度の活動報告書であるArt Gamadas(アート・ガマダス)第3号を発行いたしました。

収録展覧会は「八谷和彦 オープンスカイ」、「岡本太郎 絶対の孤独」、「CAMK流 現代「日本画」の精華」、「熊本アートバレード 第15回熊本市市民美術展」、「マリーナ・アブラモヴィッチ ザ・スター」、「斎藤義重展」、またギャラリーでのvol.3-12までの展覧会、講演会、イベントなどすべて記録した一冊です。その時に立ち会うことのできなかった方々も読み物として楽しんでいただけるよう作成いたしました。

総数684ページ(うちカラー32ページ)、税込み2300円、限定200部を美術館受付で販売しています。通信販売はHPをご覧ください(現金書留で前払いの通販になります)。



Art Gamadas 第3号

## WORLD NEWS

### ●Well Done - The Art of Design World 2005.10.8-12.11

台北当代美術館は、先駆的な企画が光る現代美術館です。「Well Done - The Art of Design World」展は、アートとデザインの境界を探る現代美術展。Li Jian-yangの美しく彩られたヘルメット、po+long2の工場機械を思わせるデザイン画、Tard BOONTJEの細田で厚やかな切り紙のランプシェードなど、見る者を視覚的に魅了する作品が並びました。「アートの中のデザインをテーマにした展覧会」と知るまで、そのテーマについて思い至らなかったのですが、それほど、現代美術は工業製品や日常の文物の中に入り込んでいて、また逆に、現代美術の中には日常が入り込んでいたのだと感じました。(K.K)

Tard BOONTJE作品  
Museum of Contemporary Art, Taipei, Exhibition of Well Done - The Art of Design World

## Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ

熊本市現代美術館内に設置しておりますアンケート・ボックスに寄せられましたご質問・ご意見等にお答えします。

Q.卓球台で遊びたいのですが、いつも混んでいます。いつ行くと空いてますか?

A.当館のフリーゾーン、メディア・ギャラリーにあります卓球台は、メディア・アーティストの石井裕(いしいひろし)さんによる「PingPongPlus(ピンポンプラス)」という、観客参加型のアート作品です。熱狂的なプレイヤーが非常に多い作品なので、13時ちょうどくらいが狙い目かもしれません?! 国内では、熊本市現代美術館だけが収蔵・展示している作品ですので、来体験の方はぜひトライしてみてください!

「PingPongPlus(ピンポンプラス)」は、開館日の13時-18時に使用することができます。人気の高い作品なので、1グループにつき10分をごとに、次をお待ちの方に順番をお譲りください。皆様のご協力をお願いいたします。

\*関連作品:小林穂(こばやしみのる)「クリア・ボード」も13時-18時に使用できます。

石井裕さんはマサチューセッツ工科大学の教授でもあり、「Tangible Bitタンジブルビット(触知できる電子情報)」をテーマに研究しています。石井さんにとって、タンジブル(触って知れる)ということはとても重要です。「PingPongPlus(ピンポンプラス)」も、プレイヤーがピンポンラリーを続けることで、作品の本質のおもしろさを体験できます。現代美術において、作品の鑑賞方法は多様化してきています。皆さんが「PingPongPlus」で卓球を楽しむのも、ひとつの鑑賞方法なのです。

2002年、熊本市現代美術館イベント第10弾として、石井裕講演会「タンジブルビット-人間、情報、物理世界をシームレスに結ぶデザイン」を行いました。詳しくは、熊本市現代美術館年鑑「Art Gamadas(アート・ガマダス)vol.2」をご参照下さい。(回答者:H.T)



石井裕「Ping Pong Plus」  
熊本市現代美術館

## 「九州・高校生SOJOビエンナーレ2005」

2005.11.24 - 12.4 (前期) / 12.7 - 12.18 (後期) 崇城大学ギャラリー  
熊本市花畑町10-25 TEL323-1122

第1回目の「九州・高校生 SOJO ビエンナーレ2005」は、崇城大学が、九州各県と沖縄県の高校生の若い感性と才能を奨励・育成し、新しい文化の創造と発信の場をつくり上げることを目指し立ち上げたコンテストである。高校生にとって最も親しみのある絵画において、力強い作品が目立ち、今後の多様な展開を予感させるものであった。(Y.H)



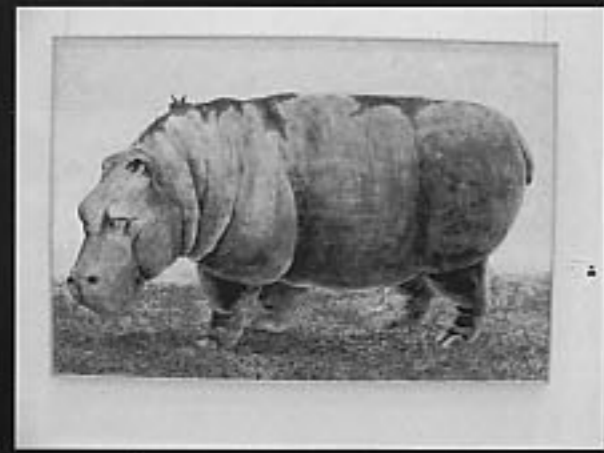
作家の村上隆さん

## 「淵上 潤 個展 シルクスクリーンに魅せられて」

2005.11.29 - 12.4 熊本県立美術館分館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

淵上潤さんのシルクスクリーンの展覧会。鮮やかな美しい色彩の中に悲しい顔をしたマスクラが宙に浮いている。その表情からどこか悲しい印象を受けた。ほとんどの作品にマスクラ、椅子の群れが描かれている。マスクラは人々の魂を、そして、椅子は壊れていくもの、死んでいく人々を現している。椅子の群れが天へと登っていく。そこに昇華していく魂が表現されているのだ。

9・11同時多発テロ以降、繰り返される戦争、そして、その犠牲になる人々、子どもたち。淵上さんは、作品の中に平和へのメッセージを込めて描くようになった。マスクラという一見遊戯化しようと思われぬ画題や、豊かな色彩の中から、なぜか湧いてくる悲しさ、寂しさ、切なさ、やりきれない思い、それらは、平和への強い思いからきたものであった。現代美術には、しっかりとした核やメッセージ性があるべきだと淵上さんは語られていました。(N.I)



前田智子さんの作品でピンクのクラバパイ

## 「第34回熊本県立第二高等学校美術科制作展」 「第3回熊本市立必由館高等学校芸術コース卒業制作展」

2005.12.20 - 12.25 熊本県立美術館分館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

第二高校美術科制作展は例年通り充実した内容。黒木裕太さんの「父の肖像」は力強い人物表現、小山麻衣さんのキャンバスを板チョコ型にカットした「チョコレート」、縫いつけられたつけ毛とバッグがユニークな島村智子さんの「マザードレス」、前田智子さんの日本画の透明感をいかしたカバを描いた「ピンクのクラバパイ」、FRPに挑みバスタブをつくった山本祐理子さんの「浴槽」、野田智美、都崎奈々さんのクレイアニメ「Ruler and Straight」等、その多くが既に自らの基準を持っている、若い才能があふれていることに嬉しくなった。

美術、書道、書道の芸術コースを持つ必由館高校の卒業制作展も、今年で3回目。美術コースは16名と少人数ながら、授業作品、卒業制作ともに、毎年着実にレベルアップしている。志水勉さんの「水中の魚」は在学中の研鑽がよくあらわれた力作。今後の活躍を期待したい。(A.S)

## 「第30回記念 日本の女流書展・九州展」

2005.10.25 - 10.30 熊本県立美術館本館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

(財) 全国書美術振興会と熊本日日新聞社が主宰する女流書家の作品展である。女流書家の資質向上と書美術の普及をねらいとして全国書美術振興会が始めた同展は、従来東京と名古屋で開催されたが、今回は30回記念として東北、北海道、九州展が加えられ、その九州展が熊本で行われた。

出品者は、各展を巡回する全国の代表的な女流書家108名に、東京出品者9名、九州・山口・沖縄選抜メンバー327名を加えた444名が力作1点を発表した。

中央の書道展で実績を誇る選抜メンバーの力作であるから、レベルの高さは勿論であるが、漢字の各書体、大字細字の仮名、漢字仮名交じり、古代様式から現代様式まで、作品の表現様式にも変化に富み、見ごたえがあって楽しめる内容であった。(T.M)

## 「第33回熊本県書道連盟展」

2005.12.6 - 12.11 熊本県立美術館本館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

県書道連盟展は、県下の書道界で一番大きな書道団体であり、派閥をこえた集団である。従ってこの連盟展には、漢字・かな・近代詩文書・大字書・篆刻・前衛書等があり、今回の212人の力作は大作もあり多彩であった。連盟役員63人と選抜会員41人による巡回展は、県下6会場(玉名市・本荘市・菊池市・人吉市・水俣市・八代市)で開催されている。連盟の熊本展は県立美術館本館で開催された。(県文化協会・県書道連盟)

特別展示として郷土に残る著名人の書「徳富蘇峰展」も併催された。徳富蘇峰(1863-1957)の書は、いわゆる書家の書ではないが独特の風格を持った気韻溢れる書風である。この10点の書は、県内の高校や旅館などが所蔵しているもので多くは晩年の作という。

連盟の幹部以外の作品で眼にとまったものは、野口久仁子さんの古代の舟「海王」の調和体作品。倉野西満さんの「塵」という前衛書。本田瑞彦さんの大作「ピカソ、ダリ」の近代詩文書。中村碧水さんの「福」による濁筆を生かした一字書。中村紫藤さんの「牧水の歌」はかなの濁濁のきいたリズムある線が美しい。有働道生さんの「茶書七言律」も手なれた用筆でうまくまとめている。木原安子さんの「運」は濃墨による素直で明るい線質がよい。川本陽子さんの「うめの花」のかなは濃墨によるすどろく強い線のリズムが楽しい。(S.K)

## 「第46回熊日書道展」

2005.12.13 - 12.18 熊本県立美術館本館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

熊日書道展は県下の書道界の1年の総決算といわれ、書道界の登竜門となっている。熊本書道の現在のリーダーと目される人達はこの熊日書道展で育った人が多い。

審査員は日展の審査員クラスが3年毎に当選している。今年は日展審査員の法元康洲さん(かな)と、日展委員の鈴木春朝さん(漢字)が審査した。熊日賞は吉岡政子さん(熊本市)さんの「かな」で「万葉のうた」である。変化のある線質が魅力であり、文字の配置も自然で美しい。泉賞の境内瑠璃さん(漢字)は20代の若い人であり、楷書作品で新鮮さを感じた。熊本市賞の有馬洋さん(本荘市)の近代詩文書の「狂ひたる神」は「へん」と「つくり」や行間を広くとり、ゆったりと見せているのが良い。特選の菊池繁実さん(熊本市)の漢字「許連詩」は、3行の行草書で線のリズムや文字の大小、強弱の変化等計算されたらまさが見られた。

審査員は、この書展の質は高く全国レベルであり、校舎ろいであるといっている。さらに新鮮さ・うまさに加えて見る人に訴えかけるインパクトがほしい。それに文字を自分のものにするつもりで制作に挑んでほしいと望んでいた。全体で7部門に505点の応募があり212点と異響・無響書の書71点が展示されていた。(S.K)

# ART de GYAN!

【アート・ド・ギャン】  
ART DE GYAN



## 「佐野信子 創作帽子展」

2005.12.14 - 12.19 ギャラリー・カフェ ト  
熊本市上通町5-46上通イーストンビル3F TEL352-7162

まるでパリの店をそのまま再現したかのような華やかで個性溢れる帽子がたくさん飾られたギャラリー。そこに帽子の似合う素敵な作家佐野信子さん。25年以上帽子の制作を続けている彼女は、高い技術で、素材に合わせ無限に様々な形の帽子を作ることができるという。幼いころからおしゃれだった母親、姉のいる環境で育ち、いつか「おしゃれ」に対する憧れが生まれ、東京文化服装学院で厳しい「美」の基礎を学び、今までたくさんの女性を華やかに美しくしてきた。どれも美しいフォルムで洗練された帽子。その帽子を身に付けた瞬間、それが似合う女性でありたいと憧れも強い、内面も外見も輝き出すのではないだろうか。そんな魔力を持った帽子がそこにはあった。(R.Y)



作家の森田晴美さん

## 「森田晴美 デコパージュ&エッグ展」

2005.11.30 - 12.5 アートスペース大宝堂  
熊本市上通5-6 TEL354-2155

17世紀のイタリアが発祥の地で、主にヨーロッパの貴婦人たちの間で楽しまれたとされるデコパージュの魅力にとりつかれた森田晴美さん主催の展覧会。25年ほど前にテレビ番組でデコパージュに出会い、すぐさま東京に向かい勉強をしたという森田さんの行動力からいかにデコパージュに魅了されたかがうかがい知れる。ゴージャスで美しいものが大好きといわれるとおり、大きな花束の作品や卵を使った馬車やメリーゴランドの作品はゴージャスなだけでなく夢に溢れた作品に仕上がっていた。自分で作るのがとにかく好き、とこやかに話される姿からは、生徒の方々とお茶を飲みおしゃべりをしながら作品を作る過程そのものを大事にしているという雰囲気があふれていて、会場内がまさにサロンのようだった。(E.Z)



作家のgajuさん

## 「迷える仔羊 a child's lost sheep」

2005.12.14 - 12.25 equipment:FLOOR  
熊本市河原町2 TEL352-1930

粘土造形作家 gaju(松岡志保)さんの個展。今回は羊をテーマに制作。会場内には、大小、色とりどりのさまざまな表情の羊の顔が展示されている。ひとつひとつの羊にさまざまな言葉、「電話しよう」「チョコ食べちゃえ」などが書かれているが、伏し目がちの羊たちが、それぞれ日常の小さな迷いを抱えながら、それを乗り越えていくために、しずかに考えられている様子を映しこんでいる。ほとんどの羊達を伏し目がちにしたのも、「このシリーズには自力は足りない！」と考えたことがきっかけとなっており、会場内たったひとつの、両目を開けた羊には「偶然のハッピー」という言葉が添えられ、迷いから解き放たれた瞬間を表現したという。それには、悟達(ごだつ)にも似た、幸せなひらめきを感じさせた。

今回の展示は、会場内の空間すべてを作品にしたかったと語るおと、色とりどりの布をさまざまな幅のストライプ状に縫いあげ、カラフルで賑やかな空間に仕上がっていた。「粘土のひび、ゆびのあとが大事なんです」と語るgajuさんのあたたかさ、前向きなエネルギーが強く感じられるインスタレーションになっており、彼女のつくりだしたやわらかな暖かさがのびのびと羊達も守られて、安心して迷っている風にも見えた。(H.T)



作家の三枝様子さん

## 「三枝様子さん & 梅木千鶴子 2人展」

2005.12.21 - 12.27 画廊喫茶三点鐘  
熊本市手取町3-8有明ビル TEL326-3040

写真家の梅木千鶴子さんと画家の三枝様子さんとの2人展。梅木さんは、雪の積もる山々の風景写真を展示。季節の風景を楽しむことができた。三枝さんは聖書をテーマにした作品制作を10年間続けていると同った。三枝さんの「昇華」という作品は、上原本、本妙寺そばの、イエスの聖心病院みどころホスピスにあるステンドグラスの原画で、バラと線が気持ちよく配置されており、色彩の調和も美しく、特に目を惹いたあわせて、草花を描いた水彩画も展示されており、こころが込められた丁寧な画風が魅力的だった。(H.T)

## 「第28回 尚綱大学書道展」

2005.12.13 - 12.18 熊本県立美術館本館  
熊本市千歳町2-18 TEL351-8411

尚綱大学文学部国文学科書道コースの現役54名と卒業生26名による書道展である。現役の1年生は全員古典の臨書、2年生は臨書の超大作、3年生は仮名に取り組むという規定がある。4年生と卒業生は内容形式ともに自由である。4年生で刻字(書を板に刻み込む)作品を出品した4名は2点出品であった。他に陶芸作品もオブジェも石碑の拓本類も見られた。

同展の特徴の一つは2年生の超大作である。施設と備品に恵まれて、思いっきり若い情熱をぶつけ合っている。痛快である。観る者を楽しませてくれる書道展であった。専任教員と非常勤講師の賛助作品12点も興味深かった。(T.M)



## 熊本市現代美術館プロデュース アートブック第1弾

好評発売中!

芥川賞候補作家 福島次郎「花ものがたり」  
「花ものがたり」(定価2000円)は熊本市現代美術館にて販売しております。通信販売も利用できます(送料別、現金書留での前払)。詳しくは096-278-7500までお問い合わせ下さい。

# ART KISS LETTER

ART KISS LETTER  
FOR KUMAMOTO PEOPLE  
Contemporary Art Museum Kumamoto  
vol.25

執筆陣一覧  
\*キヤラリー-取材原稿の文庫にイニシャルにて記載しております。

兼嶋昌山 Yosyan Kanashiro (書道家)  
森山淡草 Tanso Moriyama (書道家)

本田志子 Yoshiko Honda (熊本県現代美術館学芸員)  
藤田江美 Emi Zota (熊本県現代美術館学芸員)  
倉澤謙 Kodama Kanazawa (熊本県現代美術館学芸員)  
富澤治子 Haruko Tomisawa (熊本県現代美術館学芸員)  
坂本麗子 Akiko Sakamoto (熊本県現代美術館学芸員)  
山室りさ Risa Yamamura (熊本県現代美術館学芸員アシスタント)  
竹田 茜 Akane Takeda (熊本県現代美術館学芸員アシスタント)  
伊豆菜々 Nana Izu (熊本県現代美術館学芸員アシスタント)

## 編集後記

新年明けましておめでとうございませう。  
開館して早いもので4回目の新年を迎えることができました。これもひとえに市民のみなさん、お一人一人のお力添えのおかげと、改めて御礼と感謝を申し上げます。『アートキッスレター』は開館前の準備室時代より発行されてきた、市民と現代美術をつなげる心の手紙です。よりいっそうの深い絆を結ぶよう、これからも頑張ってまいりますので、現代美術へのご声援を今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集長 南島 宏